

ISSN 0387-9844

# 小笠原研究年報

42

2018年度  
(2019年7月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会



# 小笠原研究年報

42

2018年度  
(2019年7月発行)

首都大学東京小笠原研究委員会

表紙写真 父島躑躅山のシマホルトノキ（撮影：大林隆司）

小笠原研究年報 第 42 号（2018 年度）

# 小笠原研究年報 第 42 号 (2018 年度)

## 目 次

### 調査報告・解説

- 戦前の母島沖村界限一島民の昔話から—その 2……………石井 良則 …… 1  
海鳥成鳥に対するクマネズミとドブネズミの捕食習性の違い  
……………矢部 辰男・港 隆一・橋本 琢磨 …… 23  
小笠原諸島における 2016-2017 年の大干ばつが固有昆虫にもたらした影響  
—固有トンボ類、固有甲虫類、固有半翅類のモニタリングデータから—  
……………苅部 治紀・武田 俊介・筒井 浩俊  
永野 裕・小山田佑輔・戸田 光彦 …… 31  
生態学的なプロセスを考慮した外来植物の管理優先順位付け地図作成  
……………大澤 剛士・赤坂 宗光・可知 直毅 …… 45  
小笠原固有種天然記念物カサガイの研究 I  
配偶子形成の季節変化と生殖期の確認  
……………矢崎 育子・山口 邦久・黒川 信 …… 59  
小笠原ミニシンポジウム 2019 実施報告……………可知 直毅 …… 71

### 研究ノート

- 2018 年父島におけるベクターサーベイランス (ねずみ族と蚊族)  
……………竹内 真人・横江 卓・横塚 由美 …… 81

### 年次報告と資料

- 2018 年度の研究体制…………… 83  
2018 年度小笠原研究費会計報告…………… 84  
2018 年度小笠原研究施設利用者一覧…………… 85  
2018 年度小笠原研究施設等月別利用状況…………… 94  
小笠原研究施設の利用について…………… 95  
「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research」について…………… 96  
首都大学東京小笠原研究施設使用要綱…………… 103



# 年次報告と資料

## 2018年度の研究体制

### 小笠原研究委員会

#### 1. 委員（規程第3条）

都市教養学部	人文社会系	教 授	山田 昌久
都市教養学部	法学系	教 授	篠田 昌志
都市教養学部	経営学系	准教授	高橋 勅徳
都市教養学部	理工学系	准教授	江口 克之
都市環境学部		教 授	菊地 俊夫（委員長）
システムデザイン学部		教 授	難波 治
健康福祉学部		教 授	福士 政広
大学教育センター		教 授	立花 宏
都市教養学部理工学系長			村上 哲明
首都大学東京管理部長			西原 睦

#### 2. 事務局

理系管理課	庶務係	鮫島 隆	幣原 理恵
	庶務係長	安田 誠一	

### 専門部会

#### 1. 学内専門委員（規程第8条第3項）

総 括	理学部	教 授	可知 直毅
庶 務	理学部	助 教	加藤 英寿（利用窓口）
	都市環境学部	助 教	高木 悦郎（小笠原クラブ）
	都市環境学部	教 授	沼田 真也（教育プログラム）
会 計	理学部	教 授	可知 直毅
編 集	人文社会学部	教 授	ロンゲ ダニエル
	理学部	准教授	江口 克之
	理学部	准教授	クローニン アダム
	理学部	教 授	可知 直毅

#### 2. 学外専門委員（規程第8条第4項）

岡 秀一（元首都大学東京都市環境学部／客員研究員）

## 2018 年度小笠原研究費会計報告

予 算	
1. 総 額	1,434,000 円
2. 支 出	
1) 旅費 / 物品費	1,321,000 円
旅費	485,000 円
小笠原研究年報 41 号 (2017 年度) / Ogasawara Research No 44 (2017 年度) 印刷費	736,000 円
郵送費	10,000 円
ホームページ管理費	85,000 円
小笠原研究施設消耗品	5,000 円
小計	836,000 円
2) 人件費 (発送リスト管理・発送・HP 管理アルバイト)	113,000 円
計	1,434,000 円
決 算	
1. 総 額	1,451,477 円
2. 支 出	
1) 旅費 / 物品費	1,321,000 円
旅費	582,572 円
小笠原研究年報 41 号 (2017 年度) / Ogasawara Research No 44(2017 年度)印刷費・送付費	710,208 円
郵送費	4,684 円
ホームページ管理費	21,600 円
小笠原研究施設消耗品	1,911 円
物品費返納分	25 円
小計	738,428 円
2) 人件費 (発送リスト管理・発送・HP 管理アルバイト)	130,477 円 *
計	1,451,477 円

\* 差額 (17,477 円) は理系管理課より補填。

## 2018年度 小笠原研究施設利用者一覧

期 間	所属・職・氏名	目 的
2018.6.2 ～ 2018.6.12	理学研究科生命科学専攻 院 生 宮川 彩花	小笠原固有植物の花形態、特に花粉形態と送粉に関する調査
2018.6.8 ～ 2018.6.12	理学研究科生命科学専攻 准教授 菅原 敬	小笠原固有植物の花形態、特に花粉形態と送粉に関する調査
2018.6.8 ～ 2018.6.12	東京検疫所検閲衛生課 竹内 真人 横江 卓 小笠原総合事務所 検閲主査 岡田 直人	小笠原父島二見港における検疫感染症等媒介動物の定期的な港湾衛生調査の実施
2018.6.8 ～ 2018.6.26	理学研究科客員研究員 (森林総合研究所主任研究員) 川上 和人	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
2018.6.13 ～ 2018.6.19	理学研究生命科学専攻 院 生 宮川 彩花	小笠原固有植物の花形態、特に花粉形態と送粉に関する調査
2018.6.23 ～ 2018.7.2	理工学研究科・客員研究員 荻部 治紀 神奈川県立立命の星 加賀 玲子 小笠原固有昆虫保全研究会 藤田 宏	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関する研究
2018.6.28 ～ 2018.7.4	理学研究科客員研究員 (環境省小笠原自然保護官事務所・自然保護官補佐) 和田 慎一郎	小笠原諸島における陸産貝類の保全に関する研究
2018.7.5 ～ 2018.7.18	理学研究科生命科学専攻 院 生 山田 旭 院 生 酒井 絵理佳	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関する研究
2018.7.11 ～ 2018.7.25	理学研究科客員研究員 (森林総合研究所主任研究員) 川上 和人	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
2018.7.15 ～ 2018.7.18	理学研究科客員研究員 (日本大学 生物資源科学部・ 専任講師) 三谷 奈保 日本大学 生物資源科学部 学部生 内藤 友理 学部生 山田 咲乃 学部生 柴田 滉暉 学部生 松下 旺介	小笠原諸島における外来動物の防除と生態に関する研究

2018.7.21 ～ 2018.7.25	理学研究科客員研究員 (北里大学 一般教育部・准教授) 坂田 剛	小笠原の植物の生理生態学的研究
2018.7.21 ～ 2018.8.15	理学研究科特別研究学生 (京都大学 生態学研究センター・院生) 松山 泰 北里大学 海洋生命科学部 学部生 鈴木 拓也 学部生 岡 義堯	小笠原の植物の生理生態学的研究
2018.7.25 ～ 2018.7.28	総合研究推進機構 URA 室 職員 柴田 徹 職員 諏訪 桃子 職員 蘆澤 由紀子	島しょの産業活性化プロジェクトに協力いただける高校との打合せ及び第2回島しょ高校生サミットへのオブザーバー出席のため
2018.7.28 ～ 2018.8.4	理学研究科客員研究員 (上智大学・地球環境学研究科教授) 織 朱實 立教大学法学部 学部生 寺 真人	小笠原諸島のネズミ対策におけるリスクコミュニケーションの研究
2018.8.11 ～ 2018.8.15	理学研究科客員研究員 (都留文科大学 教養学部・教授) 別宮 有紀子 (北里大学 一般教育部・准教授) 坂田 剛 神奈川県立弥栄高等学校 坂田 美樹 相模原市立内郷中学校 坂田 愛佳	小笠原の植物の生理生態学的研究

<p>2018.8.15 ～ 2018.8.18</p>	<p>理学研究科生命科学専攻 教授 可知 直毅 人文科学研究科人間科学専攻 教授 ダニエル ロング 理学研究科生命科学専攻 R A 近藤 日名子 学部生 杓掛 丈 学部生 飯島 夏菜子 学部生 西村 美柚 理学研究科化学専攻 院生 牧野 恵里香 都市環境学部観光科学 学部生 谷藤 優成 学部生 廣瀬 絢理 都市環境学部地理環境コース 学部生 梶原 拓人 都市環境学部都市政策科学科 学部生 柏木 咲良 人文社会学系 学部生 中村 汐里 人文社会学部 学部生 田中 千陽 経営学系 学部生 香取 拓馬 システムデザイン学部 機械システム工学科 学部生 神田 翔平 システムデザイン学部 電子情報システム工学科 学部生 三井 豊 健康福祉学部 看護学科 学部生 石井 玲奈</p>	<p>教養科目「自然と社会と文化」</p>
--------------------------------------	---	-----------------------

2018.8.16 ～ 2018.8.18	<p>理学研究科客員研究員 (京都大学 生態学研究センター・教授) 石田 厚 (代表者)</p> <p>理学研究科客員研究員 (都留文科大学 教養学部・教授) 別宮有紀子</p> <p>理学研究科客員研究員 (北里大学 一般教育部・准教授) 坂田 剛</p> <p>理学研究科特別研究学生 (京都大学 生態学研究センター・院生) 松山 泰</p> <p>山形大学 農学部 准教授 吉村謙一</p> <p>北里大学 海洋生命科学部 学部生 鈴木 拓也 学部生 岡 義堯</p> <p>神奈川県立弥栄高等学校 坂田 美樹</p> <p>相模原市立内郷中学校 坂田 愛佳</p> <p>タイ王国ワラヤ アロンコン ラチャバット大学 講師 ナンヤ パプラディット</p>	小笠原の植物の生理生態学的研究
2018.8.18 ～ 2018.8.22	<p>理学研究科生命科学専攻 院生 宮川 彩花</p>	小笠原固有植物の花形態、特に花粉形態と送粉に関する調査
2018.8.18 ～ 2018.8.22	<p>人文科学研究科人間科学専攻 教授 ロング ダニエル</p> <p>慶北大学校・講師 (首都大学招 聘研究者) 李 舜炯</p> <p>首都大学東京人文・社会系 学部生 馬場 浩平</p> <p>国際基督教大学 学部生 岩山 凌也</p>	小笠原の言語と文化に関する調査
2018.8.22 ～ 2018.8.26	<p>理学研究科客員研究員 (国立沖縄工業高等専門学校・ 技術専門職員) 渡邊 謙太</p>	小笠原の植物の生態と植生回復に関する研究
2018.8.22 ～ 2018.9.6	<p>都市環境学部自然・文化ツーリ ズムコース 学部生 小野塚 瑞季</p>	外来種 (アオノリュゼツラン) の生態系影響及び利用可能性を探る研究のため
2018.8.22 ～ 2018.9.12	<p>理学研究科客員研究員 畑 憲治</p>	小笠原諸島における外来生物駆除後の生態系変化に関する研究

2018.8.26 ～ 2018.9.25	健康福祉学部看護学科 学部生 安部 悠子	小笠原における島民の生活習慣に関する調査
2018.9.2 ～ 2018.9.6	都市環境科学研究科 准教授 大澤 剛士 都市環境学部自然・文化ツーリズムコース 学部生 田村 優衣 学部生 水上 智絵 学部生 小林 慶太	外来種（アオノリュゼツラン）の生態系影響及び利用可能性を調べる研究のため
2018.9.2 ～ 2018.9.12	理学研究科生命科学専攻 特任研究員 佐藤 臨 理学研究科客員研究員 (九州大学大学院農学研究員 教授) 平館 俊太郎 九州大学農学部 学部生 宮邦 怜 学部生 津守 玲	小笠原諸島における外来生物に起因する土壌環境の劣化に伴う生態系の変化
2018.9.2 ～ 2018.9.12	島根大学 学術研究院 農生命 科学系特任助教 (首都大学東京 客員研究員) 須貝 杏子	小笠原諸島の在来植生における埋土種子の種子構成の解明
2018.9.9 ～ 2018.9.12	理学研究科生命科学専攻 助教 加藤 英寿	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
2018.9.9 ～ 2018.9.12	理学研究科・客員研究員 (京都大学 生態学研究センター・教授) 石田 厚	小笠原の植物の生理生態学的研究
2018.9.9 ～ 2018.9.12	理学研究科生命科学専攻 教授 可知 直毅	外来生物に起因する土壌環境の劣化に伴う生態系の変化に関する研究
2018.9.9 ～ 2018.9.12	理学研究科客員研究員 (東京都農林総合研究センター 研究員) 大林 隆司	小笠原の外来種対策に関する生態学的研究
2018.9.9 ～ 2018.9.14	理学研究科客員研究員 (自然環境研究センター 研究員) 森 英章 自然環境研究センター 研究員 吉留光一	小笠原諸島における希少昆虫および陸産貝類の生息域外保全に関する研究

2018.9.22 ～ 2018.9.25	理学研究科生命科学専攻 Adam L Cronin 理学研究科生命科学専攻 院生 Diyona Putri Sorbonne University. CNRS, Institute of Ecology and Evolution. Thibaud Monnin	A study of the biology and phylogeography of the invasive ant <i>Themnothorax bruneus</i> in Japan.
2018.10.6 ～ 2018.10.16	理学研究科客員研究員 (愛知教育大学生物・講師) 常木 静河 愛知教育大学 名誉教授 芹沢 駿介 学部生 足立 耀 学部生 田中 瑞基	小笠原諸島産固有希少植物を対象とした保全 生物学
2018.10.6 ～ 2019.1.16	理学研究科特別研究学生 (東京大学理学系研究科生物科 学専攻博士2年) 中村 隆太	小笠原諸島産固有希少植物を対象とした保全 生物学
2018.10.7 ～ 2018.10.16	理学研究科客員研究員 (森林総合研究所主任研究員) 川上 和人 東京農工大学農学部地域生態 システム学科 河邊 健	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
2018.10.12 ～ 2018.10.16	愛知教育大学 学部生 川久保 帆奈美 院生 丹下 麻衣 院生 柳田 滯	小笠原諸島のタブノキ属植物およびオニホラ ゴケをはじめとするシダ相に関する研究
2018.10.12 ～ 2018.10.17	首都大学東京 総務部施設課施 設係 職員 森 孔明 職員 岡田 裕行	小笠原研究施設の改修に伴う現地視察等
2018.10.22 ～ 2018.10.25	理学研究科生命科学専攻 准教授 岡田 泰和	小笠原の外来アリの生態に関する予備調査
2018.11.1 ～ 2018.11.4	人文科学研究科人間科学専攻 教授 ロング ダニエル	小笠原の言語と文化に関する研究
2018.11.1 ～ 2018.11.10	理学研究科客員研究員 (神奈川県立生命の星・地球博 物館・主任学芸員) 荻部 治紀 神奈川県立生命の星・地球博物館 外来研究員 加賀 玲子	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関 する研究

2018.11.14 ～ 2018.11.25	東京検疫所検疫衛生課 竹内 真人 横江 卓 小笠原総合事務所 検疫主査 岡田 直人 島しょ保健所小笠原出張所 副所長 佐藤 正子 生活環境担当 山崎 翔子	小笠原父島二見港における検疫感染症等媒介動物の定期的な港湾衛生調査の実施（協定にもとづく使用）
2018.11.22 ～ 2018.11.25	理学研究科客員研究員 （京都大学大学院理学研究科准教授） 高山浩司 京都大学理学部 学部生 西村明洋 学部生 西岡龍樹	小笠原諸島の生物多様性に関する研究
2018.11.28 ～ 2018.12.8	理学研究科客員研究員 （小笠原自然文化研究所研究員） 佐々木 哲朗（代表者） 千葉県立中央博物館分館海の博物館 主任上席研究員 柳 研介 琉球大学理工学研究科海洋環境学専攻 准教授 James Davis Reimer 琉球大学理工学研究科海洋環境学専攻 院生 喜瀬 浩輝 沖縄工業高等専門学校生物資源工学科 准教授 磯村 尚子 鹿児島大学大学院理工学研究科 助教 上野 大輔 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 助教 藤井 琢磨 北海道大学大学院理学院 （日本学術振興会特別研究員DC2） 院生 自見 直人	小笠原諸島の生物相とその保全に関する研究
2018.12.8 ～ 2018.12.16	理学研究科客員研究員 （環境省小笠原自然保護官事務所・自然保護官補佐） 和田慎一郎	小笠原諸島における陸産貝類の保全に関する研究

2018.12.11 ～ 2018.12.20	理学研究科客員研究員 (森林総合研究所主任研究員) 川上和人 東京農工大学農学部地域生態 システム学科 学部生 廣山晃也	小笠原の鳥類相と生態に関する研究
2018.12.17 ～ 2018.12.20	理学研究科客員研究員 (上智大学地球環境学研究科教授) 織 朱實	小笠原諸島のネズミ対策におけるリスクコ ミュニケーションの研究
2019.2.9 ～ 2019.2.18	理学研究科客員研究員 (小笠原自然文化研究所・理事長) 堀越 和夫 ふじのくに地球環境史ミュージアム 教授 岸本 年郎	小笠原諸島南島における土壌動物相調査
2019.2.15 ～ 2019.2.24	理学研究科客員研究員 (神奈川県立生命の星・地球博 物館・主任学芸員) 荏部 治紀 神奈川県立生命の星・地球博物 館・外来研究員 加賀 玲子	小笠原諸島の在来昆虫の生態とその保全に関 する研究
2019.3.5 ～ 2019.3.8	理学研究科特別研究学生 (東京大学・理学系研究科生物 科学専攻博士2年) 中村 隆夫	小笠原諸島の固有希少植物を対象とした保全 生物学
2019.3.5 ～ 2019.3.8	理学研究科生命科学専攻 教授 可知 直毅 都市環境科学研究科地理環境学域 教授 松山 洋 人文科学研究科人間科学専攻 教授 ロング ダニエル	小笠原ミニシンポジウム参加
2019.3.5 ～ 2019.3.8	理学研究科客員研究員 (京都大学 生態学研究センター 教授) 石田 厚 北海道大学農学研究科 教授 佐野 雄三 京都大学理学研究科 院生 松山 秦	小笠原の植物の生理生態学的研究
2019.3.11 ～ 2019.3.16	理学研究科客員研究員 (上智大学地球環境学研究科・教授) 織 朱實	小笠原諸島のネズミ対策におけるリスクコ ミュニケーションの研究

2019.3.11 ～ 2019.3.31	理学研究科客員研究員 (京都大学大学院理学研究科准教授) 高山 浩司 京都大学理学部 学部生 西村 明洋	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
2019.3.17 ～ 2019.3.20	理学研究科・客員研究員 (上智大学・地球環境学研究科・教授) 織 朱實 上智大学地球環境学研究科 研究員 鈴木 詩衣菜 院生 DUAN YIMEI 院生 TAN SHUHAN 院生 LIU MINGXUAN 院生 LI QIAN 院生 YUAN XI 院生 YANG YALIN 院生 PHAM HUONG MAI 院生 KANDEL PRAVA 院生 池田 英梨 院生 YANG YUCHAO 院生 HAJJAR TATIANA 院生 SONG TINGTING 院生 WANG XIANG 院生 WEN XUEQIAN 院生 DUARTE GILDO GUILHERME 院生 ZHANG YONG JIAN 院生 WANG YIMING 院生 山田 一夫	小笠原諸島のネズミ対策におけるリスクコミュニケーションの研究
2019.3.17 ～ 2019.3.20	理学研究科生命科学専攻 院生 山田 旭 院生 酒井 絵里佳	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究
2019.3.19 ～ 2019.3.20	理学研究科生命科学専攻 助教 加藤英寿 院生 中内綾香	小笠原諸島の生物多様性とその保全に関する研究

## 2018年度 小笠原研究施設等月別利用状況

(単位、人・日)

区 分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
施設利用者	教 員 職 員	実利用者数	0	0	1 (0)	3 (0)	6 (3)	6 (0)	3 (1)	5 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	33 (13)
		延利用者数	0	0	5 (0)	12 (0)	32 (15)	25 (0)	19 (11)	16 (12)	32 (32)	0 (0)	0 (0)	18 (4)	159 (74)
	院 生 学 部 生	実利用者数	0	0	2 (0)	9 (7)	27 (8)	6 (2)	5 (5)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	25 (22)	81 (51)
		延利用者数	0	0	18 (0)	70 (42)	145 (55)	43 (22)	34 (34)	14 (14)	26 (26)	0 (0)	0 (0)	115 (84)	465 (277)
	客 員 研 究 員 研 究 生 研 修 員	実利用者数	0	0	6 (6)	10 (10)	13 (12)	9 (8)	2 (2)	6 (6)	6 (6)	1 (1)	4 (4)	6 (6)	63 (61)
		延利用者数	0	0	47 (47)	51 (51)	70 (66)	69 (58)	37 (37)	60 (60)	70 (70)	16 (16)	40 (40)	43 (43)	503 (488)
	環境省・自然環境研究センター職員	実利用者数	0	0	3 (3)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)
		延利用者数	0	0	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	60 (60)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	69 (69)
	月 計	実利用者数	0 (0)	0 (0)	12 (9)	22 (17)	46 (23)	21 (10)	10 (8)	20 (19)	13 (13)	1 (1)	4 (4)	36 (29)	185 (133)
		延利用者数	0 (0)	0 (0)	79 (56)	133 (93)	247 (136)	137 (80)	90 (82)	150 (146)	128 (128)	16 (16)	40 (40)	176 (131)	1196 (908)
	調 査 車 利 用 状 況	延利用日数	0	0	5	4	10	20	1	1	0	3	0	6	50
		延 走 行 距 離 数	0	0	50	10	396	265	32	16	0	32	0	138	939
当 月 最 終 走 行 距 離		241	241	291	301	697	962	994	1010	1010	1042	1042	1180		
28 年 度 月 計	実利用者数	1 (1)	3 (2)	17 (12)	22 (19)	32 (12)	24 (18)	9 (7)	6 (5)	2 (2)	3 (3)	3 (2)	20 (14)	142 (97)	
	延利用者数	4 (4)	55 (8)	378 (302)	129 (96)	173 (89)	216 (144)	92 (77)	24 (20)	9 (9)	12 (12)	12 (8)	124 (100)	1228 (869)	

(注意)

- 1 延利用者数は、3泊4日の場合、4人として計上した。
- 2 ( ) 内の数は、本学に籍を持たない共同研究者であり、内数とした。
- 3 教員には、名誉教授を含む。
- 4 業者は、客員研究員研究生研修員の ( ) に入れた。

## — 小笠原研究施設利用について —

1. 小笠原での研究計画が具体的に決まったら、小笠原研究年報に記載の「首都大学東京小笠原研究施設使用要綱」をよく読み、施設使用の申請書を、使用開始希望日の2週間前までに小笠原施設利用窓口に出してください。2018年度の担当は、南大沢キャンパス・理学研究科生命科学専攻・牧野標本館の加藤英寿（katohide@tmu.ac.jp、外線 042-677-2423、内線 2726）です。
2. 申請書には申請者の氏名、所属、身分、および施設使用者の氏名、所属、身分、目的、使用期間を明記してください。申請者は本学所属の教職員（名誉教授、客員教員、特任研究員を含む）に限ります。小笠原に関連する研究課題を持つ本学大学院生および卒業研究生は指導教員を申請者にし、施設使用者として申請できます。また、本学での身分を持たない学外共同研究者の場合は、本学所属の利用者に同行することを原則とし、施設使用者欄に氏名、所属、身分を記入してください。
3. 使用許可がおりた後、出発の前日までに理系管理課庶務係（理工学系事務室）で施設使用許可書、施設利用マニュアル、施設の鍵を受け取ってください。
4. 施設の使用に当たっては、「小笠原研究施設使用マニュアル」をよく読み、間違いのないようにしてください。
5. 帰学後、必ず研究施設使用報告書を理系管理課庶務係に提出してください。
6. 施設使用マニュアル、申請書等の様式は、小笠原研究委員会のホームページ（<http://www.tmu-ogasawara.jp/>）からもダウンロードできます。

## 「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research(小笠原研究)」について

小笠原研究委員会は、「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research (小笠原研究)」の2種類の出版物を刊行している。「小笠原研究年報」は様々な分野・機関での研究の交流と、本学の小笠原研究成果などに関する情報を広く一般に提供することが目的である。「Ogasawara Research (小笠原研究)」は、小笠原に関係するオリジナルな学術論文、調査報告、総説および、生物相のリストや気象情報など基盤的なデータを掲載する。両出版物ともに毎年5月に刊行し、原稿メ切は1月20日である。「小笠原研究年報」の印刷部数は500部で、著者には抜刷30部を提供する。「Ogasawara Research (小笠原研究)」の印刷部数は400部で、うち原則として30部は著者渡しとする。両出版物とも学外からの投稿も歓迎する。投稿要領および原稿の体裁見本は、小笠原研究委員会のホームページの「刊行物」([http://www.tmu-ogasawara.jp/about\\_ogasawara\\_research.html](http://www.tmu-ogasawara.jp/about_ogasawara_research.html))からダウンロードできる。「小笠原研究年報」のひな形はogasawara\_kenkyuu\_nenpou.doc、「Ogasawara Research (小笠原研究)」の和文原稿のひな形はogasawara\_research\_J.doc、「Ogasawara Research (小笠原研究)」の英文原稿のひな形はogasawara\_research\_E.docである。

既刊号の入手に関する問い合わせ先は、小笠原研究委員会 (island@tmu.ac.jp) である。なお、2005年度以後の「小笠原研究年報」と「Ogasawara Research (小笠原研究)」は、首都大学東京の機関リポジトリ「みやことり」(<https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/index.php>)でPDF版が公開されている。

### 「小笠原研究年報」投稿要領

2019.4.25改訂

原稿はワープロソフト (Microsoft Word) を使って作成する (A4 横書)。

投稿に際して希少生物等の保全に対して十分配慮すること。

#### 【原稿の体裁と執筆要領】

##### 1. 原稿の構成

原稿の体裁については、p.100の【小笠原研究年報のひな形】の項目を参照されたい。

##### 1) 表紙

タイトル、著者名、著者のローマ字表記、著者の連絡先 (住所、電話番号、ファックス番号、E-mail アドレス) を記入する。

## 2) 本文 1 ページ目

1 行目にタイトル（中央揃え）を書く。2 行目は空白とし、3 行目以後に著者名（所属）を記入する（共著者が 3 名の場合は 3 ～ 5 行目に記入）。著者名（所属）の後に空白行を 1 行入れる。

## 3) 要約

要約は 300 字以内とする。

## 4) 本文

本文中ではカンマとピリオド（.,）ではなく句読点（。、）を使用する。ただし、本文中の文献の引用は 3. に準ずること。

本文中の見出しは以下のようにする。

要約（センタリング）

I. はじめに

II. 材料と方法

1. 調査地の概要

さらに細かい小見出しは著者にまかせる。

III. 結果

IV. 考察

謝辞

文献（センタリング）

## 2. 単位・数量の書き方

メートル法に準拠する（例：1/3、10%、15 m、40 km、63 g、3.5 t など）。

## 3. 本文中での文献の引用の仕方

上付きの<sup>1</sup>などは用いない。日本語文献は、著者が 2 名以下の場合は「伊藤（1993）、内田・松田（1990）によると・・・」、著者が 3 名以上の場合は「木村ほか（1993）によると・・・」のように引用する。文末の（ ）内での引用は「・・・が知られている（内田・松田、1990; Wilson et al., 1992）。」や「・・・である（上田ほか、1993）。」のように引用する（*et al.* はイタリックで表記。（ ）内の複数文献は半角のセミコロンで区切る）。

欧文文献は、Balford & Thomas (1992)、3名以上は Burleu *et al.* (1982) のように引用する。文末の ( ) 内での引用は、「・ ・ ・が知られている (Balford & Thomas, 1992; Wilson *et al.*, 1992)。」のようにする。

#### 4. 引用文献の書き方

文献の言語にかかわらず第一著者の姓をアルファベット綴りした場合の、アルファベット順に並べる。同じ著者名が続いた場合も省略しない。日本語の文献の場合、著者の姓と名の間を半角空ける。雑誌名や Proceedings のタイトルは省略しない。日本語・英語の文献に関わらず、括弧、カンマ、ピリオドは半角とする。

##### 日本語の論文

町田 洋・新井 房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出したテフラアホヤ火山灰. 第四紀研究 17: 143-163.

##### 日本語の報告書

加藤 芳郎・宇津川 徹 (1981) 父島の土壌. 小笠原諸島自然環境現況調査報告書 (2). 東京都, 133-142.

##### 日本語の単行本

町田 洋・新井 房夫 (1992) 『火山灰アトラス』東京大学出版会, 276p.

##### 日本語の単行本の一部

黒田 直 (1992) 土壌. 小笠原自然環境研究会 (編) 『フィールドガイド小笠原の自然—東洋のガラパゴス』古今書院, 46-51.

##### 欧文の論文

Aubry MP, Berggren WA & Kent DV (1988) Paleogene geochronology; an integrated approach. *Paleoceanography* 3: 707-742.

雑誌のタイトルはイタリックにする。

##### 欧文の報告書

Olsen RR & Cameron JL (1993) Larval development of the pencil urchin. *Proceedings of*

6th International Echinoderm Conference, 807p.

報告書のタイトルはイタリックにする。

#### 欧文の単行本

Fagri K & van der Pijl L (Eds.) (1979) *The Principles of Pollination Ecology*. Pergamon Press, 500p.

本のタイトルはイタリックにする。

#### 欧文の単行本の一部

Hori R, Pang VPE & Jin LT (1991) On the pattern of gonadal development of the sea urchin. In: *Biology of Echinodermata* (Ed. by Yanagisawa T, Yasumasu I, Oguro C, Suzuki N & Motokawa T), 249-255.

本のタイトルはイタリックにする。

#### 欧文のオンラインの情報

Plummer M (2018) rjags: Bayesian Graphical Models using MCMC. R package version 4 - 8. <https://CRAN.R-project.org/package=rjags>, Accessed 24 April 2019.

## 5. 表

表は1つずつ別紙に書かなければならない。1つの表は原則として1ページに印刷できる大きさとする。1ページを越える表については2ページ以上に分割する。表のタイトルと説明は表の先頭に書く。各表のタイトルと説明は、まず「表1」（MSゴシック）と書き、ついでタイトル（MSゴシック）を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に説明（MS明朝）を加える。

## 6. 図

各図をそれぞれ別紙にして、そのまま製版できる状態のものを本文の最後に順番に添付する。図は、著者に渡すPDF版ではカラーである。印刷物でカラー図版を希望する場合は事前に編集委員会に相談すること。図の説明は別紙にまとめて書く。各図の説明は、まず「図1」（MSゴシック）と書き、ついでタイトル（MSゴシック）を挙げたのち、本文を読まなくとも理解できる程度に説明（MS明朝）を加える。図の作画者や写真の撮影者が著者と異なるときは、そのことを明記し、また必要な場合は、著者においてあ

らかじめ著作権者の許可を受けておくこと。

### 【小笠原研究年報のひな形】

小笠原研究年報のひな形は、小笠原研究委員会のホームページの「刊行物」([http://www.tmu-ogasawara.jp/about\\_ogasawara\\_research.html](http://www.tmu-ogasawara.jp/about_ogasawara_research.html)) からダウンロードできる。「小笠原研究年報」のひな形は ogasawara\_kenkyuu\_nenpou.doc である。

### 【投稿と編集】

原稿メ切は原則として毎年1月20日である。原稿の掲載可否は編集委員会で決定する。原稿はE-mailの添付ファイルあるいはCD-R等で編集委員会宛に送付する。なお、添付ファイルの上限は10MBとする。本文はMicrosoft Wordで作成し、1つのファイルにする(一太郎等で作成した場合はWord形式に変換)。使用するフォントは、小見出しはMSゴシック、それ以外はMS明朝とする。表はMicrosoft Excelで作成する。複数の表が存在する場合は、表ごとにファイルを作成するか、1つのファイルに別シートとして作成する。図は、画像ファイル(EPS、TIFF、JPEGなどの形式)として作成する。複数の図が存在する場合は、図ごとにファイルを作成する。

### 【校正】

原則として初校の校正は著者が行ない、再校以降は編集者が行う。著者校正は印刷上の誤りについてだけ行ない、内容や図表の変更は認められない。

### 【抜刷】

報文の印刷物30部およびPDF版(論文中の図はカラー)を著者に無料で提供する。

## 「Ogasawara Research (小笠原研究)」 投稿要領

2019. 4.25 改訂

主として小笠原に関係するオリジナルな学術論文、調査報告、総説および、生物相のリストや気象情報など基盤的なデータを含む長い報文を優先するが、短い報文も編集委員会の判断で掲載する場合がある。投稿に際して、希少生物等の保全に対して十分に配慮すること。

### 【原稿の体裁と執筆要領】

英文、和文ともワープロソフト (Microsoft Word) を使用し、そのまま製版できるように図表を貼りこんだ原稿 (A4、横書き) を作成する。英文、和文ともに体裁は、小笠原研究委員会の Web Site ([http://www.tmu-ogasawara.jp/about\\_ogasawara\\_research.html](http://www.tmu-ogasawara.jp/about_ogasawara_research.html)) で公開されている ogasawara\_research\_E.doc (英文の場合)、ogasawara\_research\_J.doc (和文の場合) をそれぞれ参照すること。原稿の表側にはページ番号をふらず、裏側に鉛筆書きでページ番号を記入する。

英語と日本語のキーワードをそれぞれ5つ以内で列挙する (英語キーワードのアルファベット順)。キーワードには、原稿タイトルに含まれる語句は含めない。英文報文には和文要旨を、和文報文には英文要旨を、それぞれ References または引用文献の次のページにつける。章節のたて方は基本的に著者に任せるが、脚注はできるだけ用いない。

文献引用の仕方、文献リストの書き方は「小笠原研究年報」に準じる (3. 本文中での文献の引用の仕方、4. 引用文献の書き方を参照のこと)。

### 【投稿と編集】

原稿メ切りは原則として毎年1月20日である。電子ファイルとプリントアウト1部を編集委員会あてに送付する。電子ファイルは、「本文」は Microsoft Word、「表」は Microsoft Excel、「図・写真」は EPS、TIFF、JPEG などの形式とするか、これらのファイルを1つの PDF ファイルにまとめたものとする。他の著作からの図表を引用する場合は、著者の責任で出版社など著作権者の了解を取ること。投稿は首都大学東京関係者以外からも受け付ける。原稿の掲載可否は編集委員会で決定する。編集は、論文の内容によっては編集委員長が委任する臨時の編集委員によって行われる場合がある。なお、出版費用が限られているので、投稿予定がある場合は12月中に編集委員会に前もって相談すること。

### 【校正】

原稿はそのまま製版され、校正をできないので、投稿時に十分注意すること。

## 【抜刷】

「Ogasawara Research（小笠原研究）」では抜刷は作成せず、原則として冊子 30 部を著者渡しとする。

## 【投稿者へのお願い】

今後、「小笠原研究年報」、「Ogasawara Research（小笠原研究）」掲載の報文の全文あるいはその一部がインターネット文献検索サイト上に掲載されることも多くなると考えられます。小笠原研究委員会宛に要請のあったものについてはできるだけ協力していきたいと考えておりますが、その中には「著作権の処理」をすませておく必要のあるものもあります。そこで、投稿される報文につきまして、あらかじめ電子化・公開することの許諾をいただければと存じます。特にご異存なければ、小笠原研究委員会の Web Site ([http://www.tmu-ogasawara.jp/about\\_ogasawara\\_research.html](http://www.tmu-ogasawara.jp/about_ogasawara_research.html)) から許諾書のファイル (shoudakusho.doc) をダウンロードし、署名または捺印の上、小笠原研究委員会宛にお送り下さい。なお許諾を頂けない場合はその旨お知らせいただければ幸いです。

許諾書をお送りいただいた報文につきましては、首都大学東京の機関リポジトリ「みやこどり」(<https://tokyo-metro-u.repo.nii.ac.jp/index.php>) で公開いたします。

---

## 許 諾 書

小笠原研究委員会 殿

年度「小笠原研究年報」「Ogasawara Research（小笠原研究）」掲載の自著報文類の電子化・公開については、これを許諾します。

年 月 日

氏名：

※ 著者が複数の場合はこの用紙にまとめて署名していただいても結構です。

## 首都大学東京小笠原研究施設使用要綱

### (趣 旨)

第 一 条 この要綱は、首都大学東京小笠原研究委員会規程第9条に基づき、首都大学東京小笠原研究施設（以下「小笠原施設」という。）の使用について、必要な事項を定めるものとする。

### (使用目的)

第 二 条 小笠原施設の使用は、小笠原諸島の自然及び社会を研究するとともに、同諸島の発展に基礎的分野で貢献することを目的とする。

### (使用資格)

第 三 条 小笠原施設を使用できる者は次の各号の一に該当する者とする。

- 一 本学の教職員（名誉教授及び客員教授（研究員）を含む。以下同じ）。
- 二 本学の学生
- 三 本学の教職員の共同研究者

2 前項第二号及び第三号に規定するものにあつては、原則として、本学教職員に同行するものとする。

### (使用手続)

第 四 条 小笠原施設を使用しようとするものは、別記様式第1号により小笠原研究委員会委員長（以下「委員長」という。）に申請しなければならない。

- 2 委員長は、使用を認めたときは、別記様式第2号により使用許可を通知するものとする。
- 3 使用者は、使用許可証を所持し、必要に応じて提示しなければならない。

### (使用者の義務)

第 五 条 使用者は、別に定める使用者心得を守り、施設、設備を良好な状態に保つように努めなければならない。

### (現状回復等)

第 六 条 使用者は、その責に帰する事由により、建物、設備及び備品等をき損、汚染又は滅失したときは、現状に回復し又はその損害を賠償しなければならない。

### (転貸等の禁止)

第 七 条 使用者は、小笠原施設をその用途以外に使用し、又は他の者に使用させてはならない。

### (使用許可の取消)

第 八 条 委員長は、使用者が次の各号の一に該当する場合には使用の途中であっても使用許可を取り消すことができる。

一 申請の内容に虚偽があったとき。

二 使用者心得を守らないとき。

2 使用許可の取消しによって生ずる使用者の損害に関しては、使用者自らがその責を負うものとする。

(使用期限の延長)

第 九 条 研究上その他の理由で使用期限の延長が必要となった場合は、事前に委員長に期限延長を申請し、その許可を得なければならない。

(使用報告書の提出)

第 十 条 使用者は、使用報告書を使用終了後、別記様式第 3 号により速やかに委員長に報告しなければならない。

(調査用自動車の使用)

第 十 一 条 小笠原施設の調査用自動車を使用する場合は、施設の使用を申請するに併せて別記様式第 4 号により、使用の許可を理系管理課長に申請するものとする。

2 調査用自動車の使用は本学の教職員に限る。

3 使用者は、調査用自動車運転日誌を、別記様式第 5 号により提出しなければならない。

(展示ホールの公開)

第 十 二 条 小笠原施設の展示ホールは、使用者の滞在中、住民の見学に供されるものとする。

(研究成果)

第 十 三 条 小笠原施設においてなされた研究の成果は、小笠原施設の研究業績として登録されるものとする。

(その他)

第 十 四 条 使用者は、この要綱に定めるもののほか、小笠原研究委員会が定める指示に従わなければならない。

# 首都大学東京小笠原研究施設使用申請書 Application for the Use of Ogasawara Field Research Station

\_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day)

小笠原研究委員会委員長 殿 To Chairperson of the Ogasawara Research Committee

所属 Affiliation

職 Title

氏名 Full name

電話（内線） Tel no. (Ext. no.)

下記の通り施設使用を申請します。 I hereby apply as follows:

### 記

1. 目的（研究テーマ） Research theme

2. 使用期間 Period of use

自 From \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day)

至 To \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day) (\_\_\_\_名 No. of people × \_\_\_\_日 No. of days 延べ \_\_\_\_日 Total no. of days)

注) 同一グループに使用期間が異なるメンバーが含まれる場合は、使用期間ごとに複数の申請書に分けて申請してください。 If the period of use is different in members of the group, please submit a separate application form for each period.

3. 使用者所属・職（または学年）・氏名 Affiliation, title (or school year), and name of all users

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合 代表者氏名 Representative of the group : \_\_\_\_\_  
\* If a representative of the group is not included in "3" above, please write the name.

4. 調査用自動車 University-owned vehicle for research

1. 使用する Required 2. 使用しない Not required (どちらかを消す) Delete the one you do NOT choose.

※以下は記入不要です。 Office use only

\_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

上記申請について 許可 ・ 不許可 とする。

委員長	総務担当

事務局	管理課長	庶務係長	担当

首都大学東京小笠原研究施設使用報告書  
Report of the Use of Ogasawara Field Research Station

\_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day)

小笠原研究委員会委員長 殿 To Chairperson of the Ogasawara Research Committee

所属 Affiliation  
職 Title  
氏名 Full name  
電話（内線） Tel no. (Ext. no.)

下記の通り施設を使用しましたので報告します。 I hereby report as follows:

記

1. 目的（研究テーマ） Research theme

2. 使用期間 Period of use

自 From \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day)

至 To \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day) ( \_\_\_名 No. of people × \_\_\_日 No. of days 延べ \_\_\_日 Total no. of days)

注) 同一グループに使用期間が異なるメンバーが含まれる場合は、使用期間ごとに複数の報告書に分けて報告してください。 If the period of use is different in members of the group, please submit a separate report form for each period.

3. 使用者所属・職（または学年）・氏名 Affiliation, title (or school year), and name of all users

※上記使用者にグループ代表者が含まれない場合 代表者氏名 Representative of the group : \_\_\_\_\_  
\* If a representative of the group is not included in "3" above, please write the name.

4. 調査用自動車 University-owned vehicle for research

1. 使用した Used \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day) ~ \_\_\_\_\_年(Year) \_\_\_\_\_月(Month) \_\_\_\_\_日(Day)

2. 使用しなかった Did not use

5. その他（施設の最終点検・異常等） Other (Final check on facility, etc.)

- 浴室・台所・湯沸器のガス元栓 Turned off the main valve (bathroom/kitchen/water-heater)
- 施錠（窓、出入口） Locked up (windows/door)
- 各室消灯 Switched the light off (each room)
- 引継（他のグループ代表者氏名： \_\_\_\_\_） Took-over to: (Representative of other group \_\_\_\_\_)
- その他 Other

※以下は記入不要です。 Office use only

報告内容について確認しました。 \_\_\_\_\_年 \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日

委員長

事務局	管理課長	庶務係長	担当

# 小笠原調査報告書

\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日提出

1 研究テーマ

\_\_\_\_\_

2 研究代表者

氏 名 \_\_\_\_\_

所 属 \_\_\_\_\_

住 所 \_\_\_\_\_

電話/ファックス \_\_\_\_\_

E-mail \_\_\_\_\_

3 共同研究者氏名（所属・学年／身分）（研究協力者を含む）

4 研究期間（西暦）\_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 ～ \_\_\_\_年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日

5 小笠原研究施設利用 有 無（該当する方に○）

6 調査の概要（書き切れない場合は別紙に）

1) 調査対象地域

2) 調査内容（400字程度）

〈編集担当者〉

編集委員長 可 知 直 毅 (理学研究科 教授)  
編集委員 ロング ダニエル (人文科学研究科 教授)  
編集委員 江 口 克 之 (理学研究科 准教授)  
編集委員 クローニン アダム (人文科学研究科 教授)  
編集補助 加賀屋 美津子 (理学研究科 リサーチアシスタント)  
編集補助 佐 藤 臨 (理学研究科 特任研究員)

印刷・発行日：2019年7月31日

発行者：首都大学東京小笠原研究委員会  
委員長 菊 地 俊 夫  
〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1  
首都大学東京 理系事務室庶務係

メールアドレス island@tmu.ac.jp  
ウェブサイト <http://www/tmu-ogasawara.jp/>

印刷：(株)相模プリント  
〒252-0144 神奈川県相模原市緑区東橋本1-14-17  
電話 042-772-1275



古紙配合率70%再生紙を使用しています